

漁業資源対策研究調査

岡崎孝博・和田隆史

本調査では重要種の資源状態を把握することを目的として、小型底びき網漁業の操業実態および主要漁協の漁獲統計を調査した。

材料と方法

徳島市漁協および椿泊漁協の小型底びき網漁業における日別漁業種類別漁業者別の漁獲統計データを用いた。

結果と考察

1. タチウオ

1日1隻あたりのタチウオの漁獲量は増減がみられるものの、2005年以降総じて横ばい傾向を示した（図1）。資源

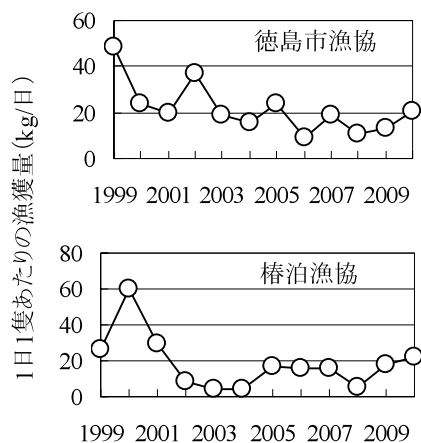


図1. 小型底びき網におけるタチウオのCPUEの経年変化

量は低水準にあると考えられる。

2. イボダイ

1日1隻あたりのイボダイの漁獲量は前年の8割程度に減少した（図2）。資源量は年によって大きく変動すると考えられる。

3. マアナゴ

1日1隻あたりのマアナゴの漁獲量は2002年以降減少傾向を示した（図3）。資源量は低水準にあると考えられる。

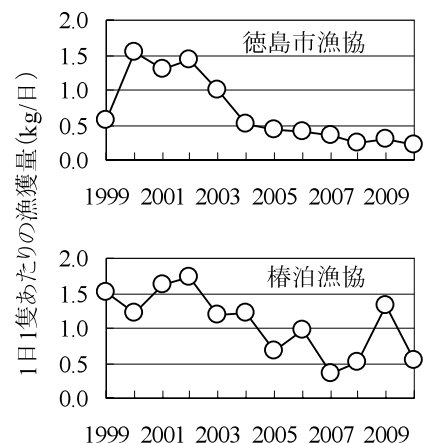


図3. 小型底びき網におけるマアナゴのCPUEの経年変化

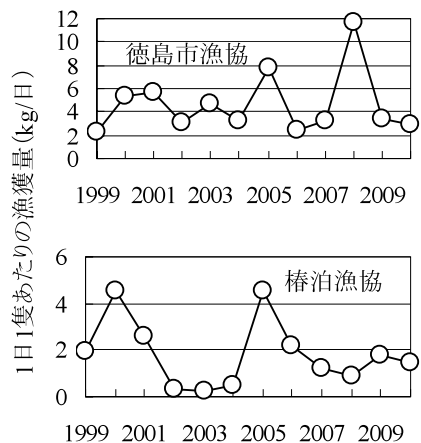


図2. 小型底びき網におけるイボダイのCPUEの経年変化

4. クマエビ

1日1隻あたりのクマエビの漁獲量は前年の9割程度に減少したものの、長期的には増加傾向を示した（図4）。資源量は高水準にあると考えられる。

5. ヨシエビ

1日1隻あたりのヨシエビの漁獲量は2008年以降増大しているものの、長期的には横ばい傾向を示した（図5）。資源量はほぼ横ばいと考えられる。

6. シャコ

1日1隻あたりのシャコの漁獲量は2002年以降減少傾向を示した（図6）。資源量は低水準にあると考えられる。

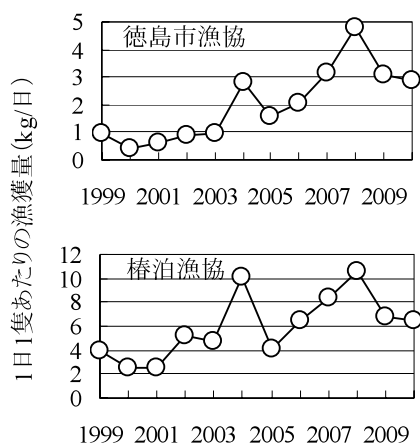


図4. 小型底びき網におけるクマエビのCPUEの経年変化

7. ジャノメガザミ

1日1隻あたりのジャノメガザミの漁獲量は2004年以降減少傾向を示した（図7）。資源量は低水準にあると考えられる。

今後は他の重要種も含めて漁獲動向のモニタリングを継続実施し、資源動向を把握するとともに、資源量の増減要因についても明らかにする必要がある。

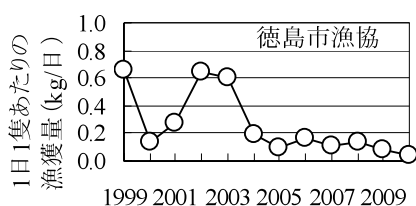


図6. 小型底びき網におけるシャコのCPUEの経年変化

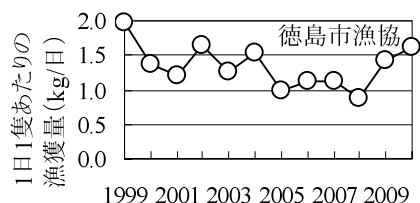


図5. 小型底びき網におけるヨシエビのCPUEの経年変化

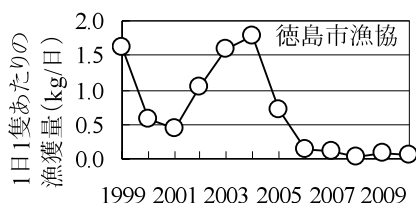


図7. 小型底びき網におけるジャノメガザミのCPUEの経年変化